

# VIEW

## ヒューマンエラー発生で管理者は大交両の存在を否定！！

## しかし対策を放置してきたのは管理者だ！！

5月9日、会社は昨日に発生したボックスドライバーの紛失について、臨時総点呼を行いました。今回所長に代わって山本科長が、①GW輸送期間中に2件の工具紛失が発生している。もはや車両検修の体を成していない。②昨年下半年から6件発生している。一部社員の決められたルールを守らないことが原因。③他の社員が頑張っても全て水の泡になる。大交両全体の存在価値が疑問視されている。と訓辞を行いました。

ヒューマンエラーの発生は良くないことです。しかし、今回の工具紛失は、訓辞のように一方的に原因を社員に転嫁して追求できるものではありません。今回の工具の不備は、以前から「ソケットが抜け落ちて無くなる可能性がある。一体型にしてほしい」「ソケットの中にボルトがはまり込み危険である」という声として管理者と現場の社員の日常のやり取りの中でも指摘されていたことです。しかし、会社は「色々な意見で今の工具になった」「会社の取引業者に一体型の工具を扱っているところはない。他を探せばあるかも知れないが技術の担当も頑張っているから・・・」という理由を付け、ヒューマンエラーが発生する危険性を知りながら無視してきたのです。そして、現実的に工具紛失が発生すれば、「工具の紛失、破損がないことを確認して管理表にサインするのがルールだ。それが守られていない」と言う理由で、全ての責任を現場社員に押しつけています。しかし、多数の管理者の中で一人でも現場の声を聞いていれば今回のヒューマンエラーは防げたことは確実です。今回の原因は現場管理者の「さぼり」が大きな一因となっているのは明白です。ヒューマンエラーを減らす対策は管理者の質の改善から始まるのではないのでしょうか。

### 「工具の確認方法の変更」で作業時分は大丈夫か？！

会社は、「工具紛失」の対策として色々なことを実施するようにしました。「工具紛失防止」のために確認するのはいいです。しかし「安全帯の着用」も含めて作業開始前にやるが多すぎます。「一連の確認」を行っている最中に「作業開始の放送」が入ります。特に午後からの交番検査開始時には作業者は「黒板に記事と一人KYの事項を書く」「一人KYをB担、C担で行う」「工具を入念になでるように点検して台帳にサインする」「B担、C担相互で個人貸与工具を確認する」そして、「安全帯を着用する」という作業を13時35分から行うことになっています。予備検査に10分掛かります。13時45分からはドアテストが始ま

【裏面に続く】

ります。現場では時間が全然足りないという声が出ています。会社は、付け足し付け足しの対策でこのような事態を引き起こしました。

会社は、作業実態・作業内容に合わせて「作業ダイヤ」を見直すべきです。どの労働組合も「サービス労働は問題だ」としています。一緒に声を上げていきましょう。